

深い学びを実現するための指導法の研究

—中学校第2学年「電磁誘導と発電」を通して—

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース理数・自然科学系(理科)

学習指導要領の改訂により、「主体的・対話的で深い学び」の実現が求められる。しかし、「深い学び」の姿について、イメージしづらいとの声があった。

本研究では、単元を貫く課題と実験計画書の作成の2つの手立てが、自分の考えを深めることができる生徒と自信を持って表現できる生徒の育成に有効であったかを明らかにし、深い学びの実現に向けた指導法は、どうあるべきかを検討した。

単元を貫く課題として「イルミネーションライトを電池なしで光らせよう」と提示し、その解決に向けて自分たちで実験計画書を作成することで、生徒は納得するまで考えたり、調べたりすることができ、深い学びにつながっていくことが明らかになった。特に、自分の問題として捉えることができ、自分の考えを試すよさを実感した。また、グループでの話し合いのよさを実感し、納得するまで調べることができ、自信がついてきた。

これらの手立てが、深い学びの実現に向けて有効な1つの方法であることが明らかになった。